

## 「シェケムでの出来事」

2021年05月06日

ある日、レアがヤコブに産んだ娘ディナは、土地の娘たちを訪ねて出かけて行った。ところが、その地の首長であるヒビ人ハモルの息子シェケムは、彼女を見かけて捕まえ、共に寝て辱めた。彼はヤコブの娘ディナに夢中になり、この若い娘を愛し、優しく語りかけるようになった。シェケムは父のハモルに、「この娘を私の妻にしてください」と言った。  
(創世記 34 章 1 節～4 節)

ヤコブは母リベカの故郷パダン・アラムで 20 年間に過ぎた。強欲な義父ラバンに利用される年月であったが、ヤコブの働きを神は祝福し、多くの財産を得ることができた。彼は一族を連れ、財産を携えて、義父ラバンの元からようやく逃れ、故郷のカナンに向かった。そこで、殺意に燃えていた兄エサウと再会しなければならない。ペヌエルで、神と祈りの格闘をし、格闘に勝って「イスラエル（神、支配したもう）」という名誉ある名前をいただいた。ヤコブは、エサウの怒りを収めるために、宥めの贈り物を用意し、主人にかしなく僕のように、身を低くして再会した。エサウは怒りを忘れていたようで、平和裏に再会できた。ヤコブは、エサウを信用していないが、大きな肩の荷を下ろすことができた。

ヤコブ一族は、カナンのシェケムの町に着き、宿営し、天幕を張った。その一部の土地を、シェケムの父、ハモルの息子たちから買い取った。そこに、祭壇を築き、それを「エル・エロヘ・イスラエル（イスラエルの主なる神）」と呼んだ。ヤコブは誰からも指図されず、不安も恐れもない深い平安を、初めて味わった。祭壇を築き、神の恵みと導きを感謝し、「エル・エロヘ・イスラエル」と神を賛美した。この時が彼の生涯において、最もくつろぎ、安心して過ごした時であっただろう。ところが、この地で悲劇が起こった。

「ある日、レアがヤコブに産んだ娘ディナは、土地の娘たちを訪ねて出かけて行った。ところが、その地の首長であるヒビ人ハモルの息子シェケムは、彼女を見かけて捕まえ、共に寝て辱めた。」レアは 6 人の男の子を産み、7 人目に、娘ディナを産んだ。兄弟たちは、初めての女の子を可愛がっただろう。彼女は羊を追って旅する生活をしてきたので、シェケムの町の娘たちに関心があり、訪ねて行った。ところが、シェケムという若者がディナを捕まえ、強姦した。彼もまた、異教の女性に関心があったのであろう。シェケムはディナを辱めたのであるが、彼女に夢中になり、愛し、優しく語りかけるようになった。そして、父ハモルに、「この娘を私の妻にしてください」と言い、彼女との結婚を願った。

ヤコブは、ディナが町の若者に汚されたことを聞いたが、息子たちが家畜を連れて野に行っていたので、黙っていた。シェケムが父ハモルに連れられて、ヤコブに結婚の承諾を得ようとやって来た時、息子たちが野から帰って来て、シェケムがディナに恥ずべきことを行ったことを知り、皆歎き、激しく怒った。父ハモルは、「息子のシェケムは、あなたがたの娘さんを恋い慕っています。どうか娘さんを息子の妻にください。私どもの親戚になっていただいて、あなたがたの娘さんを私どもに嫁がせ、私どもの娘はあなたがたがめとってください。私どもと一緒に住みください。土地は十分にあります。そこに住んで自由に取引をし、そこで財をなしてください」と丁重に申し出た。続いて、息子シェケムも、「どうかよろしくお願いたします。皆さんがおっしゃるものは何でも差し上げます。結納金や贈り物をどれほど多く求められても、おっしゃるとおりのものを差し上げます。ですから、どうかあの若い娘さんを私の妻にしてください」と申し出た。親戚関係になれば、両部族は共栄を図れる。しかし、兄弟たちはディナへの辱めを赦せなかった。